



# “式”をたくさん重ねられる幸せ

今日は「修了式」(=その学年の教育課程をおさめ<sup>かてい</sup>終える式)でした。2年生(86名)、1年生(82名)の修了おめでとうございます。皆さんはこれまでに「〇〇式(式典)」をいくつ経験しましたか。そしてこれから先いくつ経験するでしょうか。

14日に行われた「卒業式」は、送る側(在校生)と送られる側(卒業生)がそれぞれにふさわしい気持ちと態度で参加し、緊張感の中に感動のある式典になりました。在校生代表の近藤さんが、先輩からバトンを受け継ぐ覚悟を次のように述べました。

先輩方は、どんな時も最上級生という責任を背負い、受け止め、私たちを引っ張って下さいました。これからは、私たちが「豊中中学校の伝統」というバトンを引き継ぎます。このバトンの重みをしっかり受け止め、よりよい豊中中学校を創り上げていくことが、私たちの使命です。(在校生総代「送辞」より)



▲在校生代表の送辞

そして、卒業生代表の露口さんは、在校生にこう語りかけました。

在校生の皆さん、中学校の3年間は、あっという間です。残りの学校生活を充実した時間にして下さい。伝統を守りつつ、皆さんらしい新しい風を吹かせて、この豊中中学校を盛り上げていって下さい。(卒業生総代「答辞」より)



▲卒業生合唱を聞く先生方

ところで、東日本大震災(2011.3.11)から14年の歳月<sup>さいげつ</sup>が流れましたが、あの日、小学校の入学式を目前<sup>もくぜん</sup>にして津波<sup>うば</sup>に命を奪われた佐藤愛梨さん(=当時6歳=)のことを、メディアを通して知りました。生きていれば、今年20歳になっているそうです。愛梨さんが参加するはずだった成人式の会場<sup>おもむ</sup>に赴いた母親の美香さん(宮城県石巻市)の言葉が印象に残っています。

式をたくさん重ねさせてあげたかった。……人生の最後に来るお葬式がすぐ来ちゃった。  
生きていれば式典なんて当たり前前に経験するのにね。(佐藤美香さんの言葉より)

改めて考えてみると、「修了式」や「卒業式」を迎えられるのはありがたいことで、決して当たり前ではありません。これから先、新学年の始業式、中学校の卒業式、高校の入学式、成人式……人生の節目<sup>ふしめ</sup>となる式典を経験しながら、皆さんがどう成長するか楽しみです。

## ■異動により転退職する職員

このたびの人事異動により、○名の職員が転退職いたします。在任中は、大変お世話になり、ありがとうございました。皆様の今後ますますのご活躍を、心よりお祈りいたします。

(名簿は紙媒体で配布します。)